

粕谷和夫の観察日記より。8月27日、東京港野鳥公園の自然生態園で金色に輝くカナブン（銅緑・緑色の色彩変異個体）という回答でした。周りはクマゼミの大合唱でした。

紅葉台



新聞

第258号

2026年

10月30日

発行人：関谷 孝

八王子の空襲 赤石五郎 81年目に語り継ぐ

昭和20年8月1日の夜。暗くなっただけのように思えました。実際は深夜10時ごろだったようです。空襲があるからすぐ避難するようになると言われ、近所の人、市内の人、みんな逃げました。うちは元横山町で暁橋までは比較的近く6～7分も歩けば橋でした。大勢の人がごった返すように安土山の坂道を登っていました。あまりにも大勢の人が押し掛けていたので、赤土の道から外れて脇の草地を登りました。山の上から後ろを振り返ると八王子盆地が燃えていました。それでも焼夷弾はまだ投下され続けていました。大きな火の塊が空から落ちてるように見えました。中心部は完全に焼けていました。火の海です。横山町、八日町、本町、南町、寺町、三崎町、とにかく甲州街道沿いは全部焼けたようです。坂を登ってくる途中でどう間違えたのか、山のほうに落ちてきた焼夷弾を頭に受けて、娘さんが倒れていて、その脇で母親が激しく泣いていたのに、誰も振り返りもせず、我勝ちに山を上へ上へと登っていました。それが戦争なのです。自分の身を守るだけで精一杯なのです。立ち止まったら自分も同じ目に合うかもしれないのですから。

焼夷弾も落ちてこなくなり、空襲が止むと山を下り、元横山町の自宅に戻りました。幸いにも家はまだ燃えていませんでした。幅一間ほどの小川と細長い法地があったおかげで南隣の家が燃えてはいましたが、うちは助かりました。油断はならないので熱を帯びているうちの羽目板に井戸水を汲んではかけました。

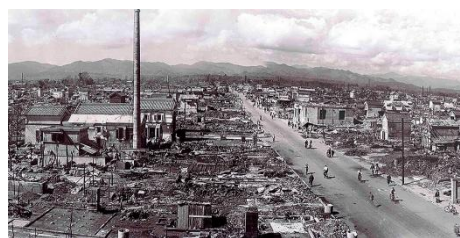
翌朝、2日の昼頃、市内の様子を見に近所の子供たちと出かけました。街中はまだ火照っていて暑かったです。本町の三菱銀行のコンクリート製の建物が残って立っていました。本庁の交差点から八王子駅がよく見えました。みんなすっかり焼けちゃったんです。

第一国民学校（第一小学校）隣の八幡様（神社）の境内に多くの人が避難してきて、そのまま住みついてしまったのもこの頃のことです。8月15日正午に重大発表のニュースがあるということで、近所中の人々がラジオのある金子さんの家の前の通りに集まってきていました。天皇陛下のお言葉が流れてきて「タエガタキヲタエ、ニンビタキヲシノビ、ここに万世一系の・・・」何のことやらわかりません。近所の人に聞きました「なんて言っているの?」「戦争が終わったんだよ」

良識のある人たちは、戦争を始める前から、この戦争には勝てないとわかっていたそうです。それを「日本は決して負けない。日本は神国、いざとなれば神風が吹く。アメリカ平が上陸してきたら、竹槍で対抗せよ」こんなこと、その頃の国民は吹き込まれ信じていたのです。戦時中は、こういうことに反対の意見を言おうものなら、それこそ憲兵にシヨ引かれて、牢屋に入れられたのでし

た。焼けた第一小学校の3階建ての校舎の2階に、陸軍が食料を貯蔵していて、それが焼けてしまった。学校近所の大人たちがバケツを持って出かけました。熱を受けてパンク寸前の鮭缶、焼け焦げた小豆をバケツに入れて戻ってきました。誰も止めるものはいませんからみんな平気でいただいて帰りました。小豆は水で洗うと、半分は浮いてくるから、それは捨て、底に沈んでいるのだけを煮て食べました。イブ臭い小豆は美味しくありません

が、生きるためにはこれを食べたのです。パンク寸前の鮭缶は結構食べられました。もうこんなこと思い出したくありません。



粕谷和夫の観察日記



8月27日、東京都大田市場の隣の東京港野鳥公園に行ってきた。ネイチャーセンターからヒクイナを見られた人は参加者の半数でしたが、前浜干潟観察デッキからはソリハシ

シギを目の前で全員が観察できました。くちばしが少し上に反っているのが確認できますか。鮮やかなオレンジ色の脚が目立ちました。これから越冬地の東南アジア、オーストラリアに向かって飛立って行きます。



8月31日、裏高尾の小仏城山に登ってきました（日影林道往復）。霧混じりの天気で、林道の両側にはジョロウグモの巣が多く、雨露に濡れてくっきりと浮かび上がって

いました。小仏城山の山頂付近の林の中では草の間に白い棚状シート網とその上に細かな立体的な糸が広がっていました。タナグモ科の棚網です。霧混じりの天気の日には山に行ったので、普段は見られないクモの巣に出会うことができました。ラッキー！！

8月31日、小仏城山の山頂の手前で赤い花クズと白い花センニンソウの写真を撮っていると若い女性2人のハイカーから声をかけられました。赤白のコントラストが見事であることとクズは秋の七草であることを説明して喜ばれました。



紅葉台新聞は、「高尾フモト同盟」のHPに公開されています。高尾の情報や働く人たちが紹介されています。興味を持った方は、覗いてみてください。また、皆様からの情報や投稿もお待ちしております。